

第6回リカジョ育成賞 -奨励賞-

テーマ	カワイイオイシイ with オシャベリでリカジョ育成～PBLで指導する高校生物～
受賞者名	滋賀県立河瀬中学校・高等学校 久保川剛宏

活動紹介	<p>高校の理系生物を指導する中で、従来の講義後に演習や実験という形では、十分に理系の魅力や理系の力を育成出来ていないと感じていた。そこで、随時生徒と対話したり、アンケートをとったりしながら、生徒の多様なスキルセットを見抜き、それに応じた PBL を立案し、実施するという形を主軸として、指導計画全体を見直した。生徒の声として、対話・食べ物・キャラクターといった要素が多く見られたため、テーマ名とした。</p> <p>例えば免疫の分野においては、“汝は人狼なりや”を全員でプレイした後、それを模した免疫ゲームのカードを作成するという PBL を実施した。各種デザインに教科的な内容を盛り込むことを評価の基準として掲げ、深い学びがもたらされる工夫をした(図 1)。発生の分野ではフェルト細工を得意とする生徒がいたため、羊毛フェルトを用いた原基分布図の作成等に挑戦し(図 2)、神経系の分野では、駄菓子を用いて教科内容を表現し、互いにプレゼンテーションをおこなうといった活動をした(図 3)。</p> <p>いずれにせよ、教科内容の目標だけでなく、各活動で育成したいコンピテンシーを掲げて生徒と共有することで、ひとつひとつの活動がバラバラにならないように心がけ、学習活動の構造化を図った。</p> <p>生徒の満足度は非常に高く、質的な変容も見取ることができた(表 1)。</p>
PRメッセージ	<p>通常授業内で実施するような PBL であっても非常に効果的であることが分かりました。ポイントは活動の目的を生徒と共有し、共通理解の下、各種活動をデザインすることで。“導いてくれるのは子供達”という生徒中心の考え方が広がっていけばと思います。</p>

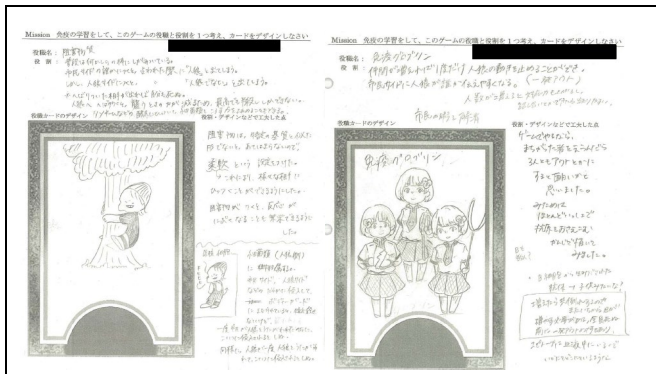


図 1. 免疫ゲームのカード(生徒成果物)

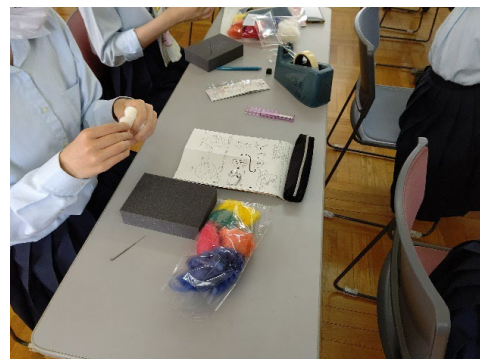


図 2.羊毛フェルトで原基分布図作成中の様子



図 3.駄菓子で作る神経系(生徒成果物)

表 1. 授業アンケート結果 2022 年 12 月実施

31名(内女子 21名) ※数値は%	1 そう 思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらかといえ ばそう思わない	4 そう思わ ない
a 興味・関心の持続	91	9	0	0
b ファシリテーション	91	9	0	0
c 学びに向かう意欲	96	4	0	0
d 教材の選択・構造化	86	14	0	0